

11月23日（勤労感謝の日）に幡多小で『幡多学区防災のつどい』が開催。

当日は、7月の西日本豪雨により大きな被害が出た東区平島連合町内会の中村会長の講話と参加者による防災マップ作製が行われました。改めて防災について考える貴重な機会も持つことができ、今後、藤原町内会の防災活動に活かしていきたいと思えます。当日の内容について以下報告いたします。

1. 平島連合町内会の中村会長の講話

岡山市東区平島地区では旭川水系・砂川の堤防決壊により、2231棟が水に漬かった。堤防が決壊したのは7月7日午前1時半すぎで、浸水範囲は約750ヘクタール、浸水の深さは、小鳥の森団地で最大約2・5メートルに達した。

浸水に気付いたのは7月7日午前1時50分ごろ。車を高台に避難しくるぶしほどだった水位が腰まで上昇。寝ていた家族を起こし、食料と水を持って2階に向かった。明るくなってきた4時ごろ、外を見ると辺り一面が水に漬かっていた。各町内会長に連絡しても、つながらない。1階のテレビやラジオも駄目になり、情報が全く入ってこない状況が丸一日続いた。

こんな状況にもかかわらず、死者・行方不明者といった人的被害を出さなかった要因として以下2点を考えている。

①平島地区一帯では自宅の2階へ「垂直避難」を実行できた住民が多かった。日頃からの避難について意識していた結果の行動と振り返っている。

②かつて一つの村だったこともあり、地域の結びつきが強い土地柄。住民同士で助け合う「共助」も生きた。住民の中には、車を移動させる際、「寝ている住民を起こさねば」とクラクションを鳴らし続けたり、道沿いの家のインターホンを押して異常を知らせる行動をとった人もあり、避難につながったと考えられる。

今後の防災活動に参考にして頂ければと思っている。

2. 防災マップの作製

町内の地図上に、危険箇所（道路、ブロック、用水路）、避難場所、避難経路などを記載し、避難する時の安全確保について話し合いました。今後の町内防災活動に反映させていきます。

当日の写真を裏面に掲載

